

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【共栄小】

学校番号：24506

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇札幌市共通指標では、「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」の項目で肯定的な回答の割合が 80%を上回っている。AAR サイクルを意識した授業づくりに取り組んだことで、「子ども自らゴールに向かって学びを進める」について一定の成果が見られたと捉えている。</p>	<p>◇札幌市共通指標では、「自分の意見を進んで発言しようとしている」の項目で肯定的な回答が 65%を下回っている。また、「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」の項目も 70%をわずかに上回る程度。自分の考えに自信をもって伝えようとすることに課題が見られる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市共通指標では、「自分が必要とされていると感じる」の項目において全質問中、最も肯定的な回答の割合が低く、65%となっている。一方で、「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目はいずれも 90%を上回っていることから、自己よりも他者に意識が向く傾向があり、他者との比較で自信をなくしたり、相手を優先し過ぎるあまり自分の意見を伝えられず、自分が受け入れられている実感がもてなかったりする現状が見受けられる。相互承認の感度を高めていくよう、授業時間にも教師の関わりを意識的に行っていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学びをつなぐ

	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>研究主題：学びをつなぐ～つなぐ、つながる、つなげる～</p> <p>◇子どもが単元全体を見通し、一つ一つの知識がつながり、「分かった。」「おもしろい。」と実感できる授業を推進する。</p> <p>◇子どもが既習や生活経験を生かした学びを通して、自己の学びを調整する力が身に付く授業の流れや単元構成を工夫する。</p> 	<p>◇特別活動や委員会での話し合い活動を充実させ、子どもが「自分の意見を取り入れられた。」「反映された。」と感じられる活動を推進する。</p> <p>◇縦割り活動や全校外遊び活動を通して、仲間と遊ぶことのよさや楽しさを実感できる活動の場を工夫する。</p> <p>◇体力づくり、挨拶運動、校内美化、読書推進活動など児童委員会と連携をし、子どもの意見を反映した自主的な活動の充実を図る。</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

